

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立120年の歴史を有する本校は、平成29年に大阪府立初の併設型中高一貫校として新たな一歩を踏み出した。中高一貫教育を通して生徒・保護者・地域の期待に応える進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、これまで培ってきた伝統にさらなる磨きをかけ、次代へ繋ぐ。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。
 - ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。
 - イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。
 - ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。
 - エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。
- ※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（H29年度67%、H30年度74%、R01年度74%）75%以上をめざし、3年後に80%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み

- (1) SSHとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。
 - ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む
 - イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。
 - ・現役での国公立大学進学者の合格者数（現役合格者数 H29年度52名、H30年度50名、R01年度45名）について40名以上をめざし、富田林中学1期生が富田林高校を卒業する3年後には、5人に1人の合格をめざす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。
 - ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスの充実を図る。
- ※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H29年度82%、H30年度82%、R01年度84%）85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。
また、（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H29年度79%、H30年度82%、R01年度80%）85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み

- (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。
 - ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。
 - イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
 - ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度（H29年度93%、H30年度95%、R01年度95%）90%以上を維持し続ける。
- (2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。
 - ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。
 - イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。
 - ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」（H29年度86%、H30年度88%、R01年度91%）90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

- (1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。
 - ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。
 - イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。
 - ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（H29年度83%、H30年度86%、R01年度83%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。
- (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。
 - ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。
 - イ 安全・安心な学校づくりに努める。
 - ウ 地域貢献を推進する。

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（H29年度91%、H30年度91%、R01年度92%）90%以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自己診断においても学校満足度（H29年度96%、H30年度95%、R01年度93%）90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

- (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。
 - ア ノークラブデー、ノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。
 - イ ルーティン化している校務を見直し、業務軽減を進める。

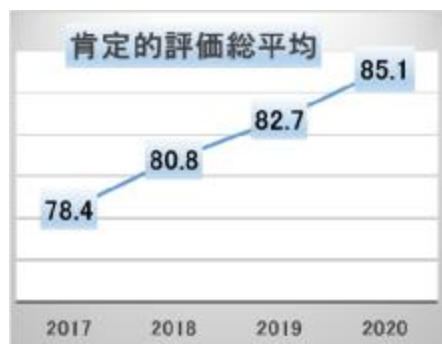
【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■学校教育自己診断結果の概要 「 」内の番号は「学校教育自己診断」の質問項目に対応。 ()内は昨年度データ。</p> <p>I 生徒・保護者</p> <p>1 学校満足度</p> <p>●生徒 「(19)富田林高校へ進学してよかった」・・・92.7% (91.8)</p> <p>○保護者 「(19)富田林高校で学ばせることができてよかった」・・・89.8% (93.3)</p> <p>2 確かな学力の育成</p> <p>●生徒 「(2)教員による ICT 機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」・・・95.8% (93.5) 「(3)内容を深く考えさせる授業が多い」・・・80.8% (77.1) 「(4)家庭学習を毎日 90 分以上している」・・・70.6% (64.2) 「(5)探究 I・II など深く考える力等が身につく」・・・76.2% (67.2)</p> <p>○保護者 「(3)学校の学習活動への取組に満足している」・・・79.4% (84.4)</p> <p>3 進路実現</p> <p>●生徒 「(7)授業や講習で進路達成に必要な学力が身につく」・・・84.2% (80.1) 「(8)学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」・・・86.3% (84.4) 「(9)目標を定め、それに合った学校生活を送っている」・・・80.2% (79.1)</p> <p>○保護者 「(5)学校の進路指導への取組に満足している」・・・73.5% (79.8)</p> <p>4 豊かな感性</p> <p>●生徒 「(14)学校の人権教育は適切である」・・・91.6% (90.6) 「(15)学校行事に参加するのは楽しい」・・・94.2% (94.8) 「(17)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・85.5% (90.5)</p> <p>○保護者 「(7)学校の人権教育への取組に満足している」・・・79.9% (85.5)</p> <p>「(12)学校の学校行事への取組に満足している」・・・87.2% (94.2) 「(16)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・80.5% (93.5)</p> <p>5 保護者連携</p> <p>○保護者 「(8)学校は HP・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく流している」・・・92.8% (83.4) 「(9)学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」54.9% (88.3) 「(10)保護者説明会の回数・内容は適当である」・・・86.2% (94.5)</p> <p>II 教員</p> <p>1 教育活動</p> <p>「(6)教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・95.8% (84.0) 「(7)本年度の計画に、昨年度の教育活動に対する評価が活かされている」・・・83.3% (64.0) 「(8)主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を意識した授業をしている」・・・87.5% (84.0) 「(9)生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」・・・93.8% (80.0)</p> <p>2 学校経営</p> <p>「(1)校長は学校運営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」・・・97.9% (98.0) 「(2)学校運営に教職員の意見が反映されている」・・・80.0% (52.8) 「(3)各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」・・・54.2% (46.0) 「(4)中学との情報共有が十分図られている」・・・33.3% (新規) 「(5)中学と協働的に取組みが進められている」・・・50.0% (新規)</p>	<p>第1回（7月10日）</p> <p>○年度当初の新型コロナウイルス対応について ・情報・教材の提供等、的確な対応であった。 ・教材送付やワイヤレスルーターの提供にコミュニティ・スクールの仕組みを有効活用している。</p> <p>○リーフレット「富校版コミュニティ・スクール」について ・立派なものがあった。</p> <p>○広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等）との協働による教育活動の推進について ・運営協議会委員・各種コーディネーター・教員で構成する「コミュニティ・スクールコーディネーター会議」が発足し、まだまだ試験的ではあるが一つの動きが出来た。 ・今後はコミュニティ・スクールならではの探究活動を模索していただきたい。</p> <p>○教科用図書選定について ・中学における「教育課程の先取り」と「学習指導要領の改訂」のずれに教科ごとに上手く対応している。</p> <p>第2回（11月27日）</p> <p>○中高一貫1期生（高1）の現状及び高みをめざす指導・フォローアップのための指導等について ・中進生の保護者の要望（前校長が示した「京阪神大に30人合格できる学校づくり」）に対しては、中高の教員が自分の問題として考え、答えを出そうとする姿勢を持たないといけない。 ・保護者の要望を受け止め、教科を中心に説明会を開いたことはよかった。大学に通うだけが目標ではなく、さらに将来を見据えて、生徒たちの実態を見ながら、プランの修正をしていただきたい。 ・カリキュラム・マネジメントを推進して6年間の学びの配列表を作成することで、教員の目標が一致し、保護者に対しても説得力を持つようになる。</p> <p>○探究活動に係る社会協働の進捗状況について ・生徒が企業と繋がって学ぶという形（企業訪問や企業からの課題提供）であるが、子どもたちが受け身になっている。 ・中高一貫の利点を生かして、先輩が後輩へアウトプットする機会が増えればよい。</p> <p>○本協議会による学校との協働と今後の在り方について ・探究活動などで企業が学校に来る日程などを教えてもらえれば、本協議会の委員が子どもたちの学びの様子を見ることができる。</p> <p>第3回（2月19日）</p> <p>○学校関係者評価について ・保護者からの指摘に対応が出来ていて、信頼構築につながっている。 ・保護者の負担する費用に関して誠実であることが、保護者からの信頼をさらに高める。 ・コロナをマイナスにとらえず、Web 会議システムでの情報のリアルタイム配信など、プラスに変えている。 ・高校教員の「中学との情報共有・協働」の評価が極めて低い。中高一貫校の最大の課題である。 ・中高一貫校発足当初から、高校教員と管理職の温度差を感じていた。 ・ポストコロナを生き抜く生徒の視点に立った話し合いが必要である。（例えば「海外＝米国」からの脱却）</p> <p>○来年度学校経営について ・パンフプロジェクトでカリキュラムマネジメントを推進し、学びを可視化するなら、結果の測定も必要である。 【承認事項】 令和3年度学校経営計画</p>

■分析等

○生徒からの肯定的評価は上昇傾向が継続

今年度から学校教育自己診断を Web 連絡網によって実施したことに伴い、自由記述を含めて質問数を 20 間に絞った。質問内容・質問数を補正し比較できる過去 4 年間をみると、微増が続いている(右グラフ参照)。また、「(19)富田林高校へ入学してよかった」は過去 10 年



以上問い続けているが、今年度は 92.7%と過去最高値を示した。10 年前と比較すると約 10 ポイントのアップとなり、この継続的な微増傾向を今後も維持することが求められる。

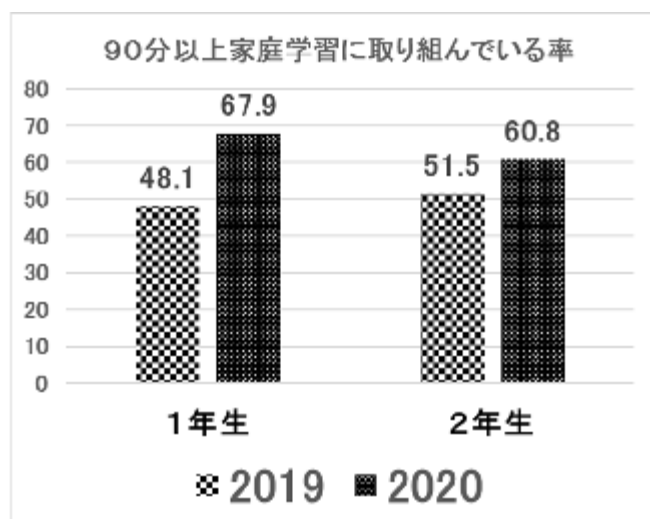
次に、学校経営計画に示す中期的目標のうち、「確かな学力の育成」「高い志を育み、進路実現をめざす」「豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力を育む」「地域・保護者との連携」の観点を踏まえ、結果を俯瞰する。

○授業評価は改善基調が続き、家庭学習時間等は 1、2 年生で増加

授業評価に関する項目(「(1)興味が持てる」「(3)内容を深く考えさせる」など)はここ 10 年程改善傾向が認められ、どちらも 4 年前に比べると 10 ポイント以上アップしている。教職員は「思考力を育む授業・考査」を意識しながら取り組んできたが、その結果が表れつつあると考えたい。

家庭学習についてはここ 5 年間ほどで見ると増減の波があるが、昨年、今年の 1、2 年生をみると、どちらも前年に比べ有意に増加している。特に 75 期生(1 年生)は昨年よりも 20 ポイント近く高率で、これまでにな

い割合となっている。高校 3 年次では自ずと学習時間は確保されるが、1 年次での学習習慣の確立、2 年次での落ち込みの回避が必要であり、今後も学校と家庭で情報を共有し、生徒に啓発していきたい。



○学校生活に関する項目は高位横ばい、学年が上がるにつれて良好

友人関係や行事への満足度は 95%近くを示し、これまでと同様に安定的な様子が窺える。また、いじめ対応については 90%を超え、教員との関係についても 9 割近い肯定率である。学校生活関連についての評価は学年が上がるにつれ良好な結果を示し、好ましい状況となっている。ただ、「(11)相談できる先生がいる」は今年度、過去 10 年における最高値となったが 67.7%で決して高いとは言えず、学校の課題と捉えたい。

○(保護者評価) 学校からの情報発信は良好だが、説明会や学校行事等への満足度に課題。生徒とは対照的に、肯定的評価は落ち込む。

昨年度末に Web 連絡網を導入した成果が表れ、学校の情報発信に対する保護者評価は 93%でかなりの高率となった。しかし一方で、授業参観などの機会設定は 55%、保護者説明会の回数・内容についても昨年より 9 ポイントほど下がって 86%となり、新型コロナウイルス禍が響いた形となっている。また、学校行事や国際交流に関連する評価も 10 ポイント前後の落ち込みを示し、厳しい結果となった。

肯定的評価の総平均については 8 割を超えたものの、過去 4 年間では最低となった(昨年 87%)。また、「富田林高校で学ばせることが出来てよかった」に対する回答も 89.8%で、わずかに 9 割を切った(過去 6 年は 9 割超)。生徒の捉えと若干異なる傾向を示しているが、不断に教育活動の見直しを行うと同時に、保護者への丁寧な説明が必要であると考えている。

○中学の制服検討に係る進捗状況について

- ・制服制度変更のメリットだけでなく、デメリットも考慮すべきである。
- ・年に数回しか着用義務のない制服を購入することには、保護者は抵抗があるだろう。
- ・生徒の意見を十全に調査する必要がある。
- ・今の中高の服装の状況を理由と共に説明しつつ、グローバルな視点を踏まえながら論じてほしい。

○本協議会の今年度の振り返り

- ・オンラインと対面を合わせたハイブリッド形式での協議会は良かった。

第 4 回(3 月 7 日)

○ 全国発表(文部科学省)「高校におけるコミュニティ・スクール ～持続可能なしくみの実現～」について

- ・「地域フォーラム」については、最初にめざした方向になってきている。
- ・富校の CS は、学校の取り組みによる「テーマ型」と地域との繋がりによる「ローカル型」の 2 つを成し遂げることができている。中高一貫校ということもあり、6 年通して取り組むことができるのは強みである。
- ・富校版 CS の仕組みが全国的に広がっていけば、教員もやりがいが出るのでは。教育庁がもっと広めていかなければ教員の負担になる。

○ 「とんこう地域フォーラム」について

- ・「地域フォーラム」での発表では、お互いにコミュニケーションをとり、考えて内容をしっかりと伝えることができていた。伝え方のスキルがこの年代で身につけているのは驚いた。
- ・発表するには知識や表現力など様々なことが必要となる。社会を生き抜く人間力が身につくまでの過程が大切なので、学校では意識してもらいたい。

○ 学校運営協議会としての今年度の振り返り及び来年度に向けて

- ・今年度の協議会は対面とオンラインのハイブリッドがよかった。
- ・フォーラムの見学のように実際に来て伝わることもある。決まったことはオンラインでも伝えられる。
- ・中学の制服検討の件は次年度の継続審議となるので、今後も取り上げていきたい。

府立富田林高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により、学校生活をデザインする。 ・新教育課程づくりに取り組む。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 ・中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 ・全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。</p> <p>ウ・英語のすべての科目でICT機器を活用した4技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。 ・各学年の進度に応じて、「朝学」の教材開発に取り組む。また同時にその効果検証を進め、今後の「朝学」活用方法について検討する。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。</p> <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>(1) ア・(生徒向け) 学校教育自己診断における授業満足度（令和元年度74%）75%以上をめざす。 ・新教育課程が完成したか。</p> <p>イ・(教員向け) 学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている』(令和元年度84%) 85%以上をめざす。 ・考査問題に、思考力・判断力等を問うものが含まれていたか。 ・教科研修期間を設け、すべての教科で研究授業が実施できたか。また、中高合同の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。 ・ICT機器を効果的に活用した授業ができたか。 (教員向け) 学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」(令和元年度80%) 80%以上を維持する。 (生徒向け) 学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」(令和元年度94%) 90%以上を維持する。</p> <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に反映させ、全生徒が活用できたか。 ・「朝学」の効果検証を行い、今後の取り組みの検討がなされたか。また、その結果、今後3年間を見通した実施計画が作成されたか。</p> <p>エ (生徒向け) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均(令和元年度64%) 75%をめざす。</p>	<p>(1) ア・(生徒向け) 学校教育自己診断における授業満足度は76%で目標達成。また、「内容を深く考えさせる授業が多い」という項目においても過去4年間上昇基調で80%を超えた。(○) ・新教育課程は原案が完成し、職員会議でも共通認識が図られた。(○)</p> <p>イ・(教員向け) 学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている』88%で過去最高値となり目標達成。(○) ・定期考査で「思考力・判断力・表現力を問う問題」の作成と、印をつけて考査綴りに綴じる取組みを実施。さらに各教科で1問だけを選び、まとめて小冊子にして全教員に配付した。教科内外で話題とする機会が増え、共有が図られた。(○) ・11月に授業改革weeks(2週間)と授業改革DAYとを設け、全教科で研究授業と研究討議とを実施、研究協議内容は共有ホルダーで共有。4年計画の1年め。また授業改革DAYでの研究授業には指導助言者を招いた。(○) ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員で結果を分析。それを踏まえて授業改善シートを作成し、各自の授業改善に活用した。(○) ・ICT機器を効果的に活用しながら授業が展開されている。極めて日常的になっているため、教員向けの学校教育自己診断の質問項目からは除外。 (生徒向け) 学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」は96%と過去最高値で目標達成。(◎)</p> <p>ウ・英語能力試験は1, 2年生全員が受験。高1生保護者対象に、京阪神大等合格者の平均スコアと本校生徒の結果について説明会を実施したが、個人の「見える化システム」への反映は開発継続中であり、次年度への課題となる。(△) ・英語科において今後の取組への検討がなされたが、「朝学」のみの効果検証及び、それを踏まえての3年間を見通した実施計画については今後の継続検討課題である。(△)</p> <p>エ (生徒向け) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」は71%で昨年よりかなりアップしたものの、目標にはわずかに届かなかった。(△)</p>

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) SSHとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。 ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。 ・現役での国公立大学進学者の合格者数40名以上をめざし、あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。 ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスの充実を図る。</p>	<p>(1) ア・本校のSSH（開発型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。 ・SSHとして、1年次の「探究Ⅰ」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。 ・科目「探究」の内容を発展的に継承していくために、組織的な取り組みについて検討する。 ・スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外の高校生等とテレビ会議システムを活用した日常的な共同研究に取り組む。</p> <p>イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を継続活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。 ・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。 ・海外進学についてのガイダンスを実施する。また、「おおさかグローバル塾」など、海外進学についての事業や説明会について、適宜情報提供を行う。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果などの振り返りを、データに基づき効果的に実施する。</p>	<p>(1) ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG（リテラシーテスト）等で分析できたか。 （生徒向け）学校教育自己診断『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身につく」（令和元年度67%）70%以上をめざす。 （教員向け）学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」（令和元年度80%）80%以上を維持する。 ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。また府外の学校からも参加者を集めることができたか。 ・「探究」の取組みについて、学年間の情報共有が図られたか。 ・海外の学校とテレビ会議システムを活用して共同研究が行えたか。</p> <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。 ・国公立大学現役合格者数40名以上をめざす。 （生徒向け）学校教育自己診断における進路指導関連項目（「科目選択」「授業・講習」「進路情報提供」）の平均値（令和元年度82%）85%以上をめざす。 ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度（令和元年度80%）80%以上を維持する。 ・2学年後半から計画的に進学講習（国・数・英）が実施できたか。（生徒向け）学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」（令和元年度80.1%）80%以上を維持する。 ・模擬試験などの結果について、データに基づき振り返る取組みを実施できたか。</p>	<p>(1) ア・リテラシーと模試の関係等、その相関についての分析を行い、SSH研究開発実施報告書にも記載した。（○） （生徒向け）学校教育自己診断『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身につく」は76%で昨年より10ポイント近くアップして目標達成。（◎） （教員向け）学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」は94%で昨年より10ポイント以上アップし、目標達成。（◎） ・新型コロナウイルスの感染予防対策を取りながら、行政、大学、研究機関、企業やNPOなどを招き、ブース形式での発表を通じた生徒との交流を行った。府外の学校から参加者を集めることは、感染拡大防止のため見送ったが、感染予防対策を講じ、制限範囲の中で成功を収めることが出来た。（○） ・探究Ⅰ総合企画会議や創生部会議において「探究」の取り組み状況を報告することで情報共有を図った。（○） ・10月末から12月末まで、広州外国語学校とWeb会議システムを利用し全6回の交流を実施した。環境問題を軸に、各グループでの討議が深まった。（◎）</p> <p>イ・毎年、1年後期にシステムについて説明することにより、全生徒が活用できるようになっている。（○） ・国公立大学現役合格者数は54名となり、目標を大きく上回った。（◎） （生徒向け）学校教育自己診断の質問内容を若干変更したが、「授業・講習」84%、「進路情報」86%、平均85%で目標達成。今後、「授業・講習」単独でも85%以上をめざす。（○） ・（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度は74%で目標を達成できなかった。特に2学年での落ち込みが激しかった。生徒の評価といささか乖離があるが、記述欄の意見に真摯に耳を傾けて改善していきたい。（△） ・（生徒向け）学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」3学年平均で84%、2学年単独では90%で十分に達成している。（○） ・各学年の各模試において必ず共有会を実施し、教員間で情報（過年度比較・他校比較・苦手分野の特定等）を共有した。その上で、LHRや授業において生徒にフィードバックした。（○）</p>
-------------------------------	---	--	---	--

府立富田林高等学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。 ア 学校教育目標で設定した<育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。 ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。 ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。 イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(1) ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。 ① 文化祭・体育祭における準備委員会を活性化させるとともに、次年度への引継ぎ体制を構築する。 ② 2年めとなるベトナム修学旅行を充実させ、3年めへと引き継ぐ。特に現地での学校交流の深化を図る。 ③ 部活動への参加を奨励する。 イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。 ・富田林高校生としての行動規範的な生徒宣言の作成に、生徒会執行部が中心となって取り組む。</p> <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2) ア 台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流を充実させる。 イ・オーストラリアの姉妹校との継続交流を図る。 ・ベトナム修学旅行における学校交流の中で、課題研究を英語で発表する。 ・中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にして実施する。</p>	<p>(1) ア・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における行事満足度(令和元年度 95%) 90%以上を維持する。 ・部活動加入率(令和元年度 92%) 90%以上を維持する。 イ 時代のニーズに合致した人権研修が実施できたか。 ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度(令和元年度 91%) 90%以上を維持する。 ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における校則遵守率(令和元年度 97%) 95%以上を維持する。 ・生徒宣言が完成したか。 ウ (生徒向け) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度(令和元年度 86%) 90%以上をめざす。 (2) ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。 イ・オーストラリアの姉妹校と交流ができたか。 ・ベトナム修学旅行において、英語での課題研究発表ができたか。 ・ねらいを明確にした海外研修を実施できたか。 ・(生徒向け) 学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」(令和元年度 91%) 90%以上を維持する。</p>	<p>(1) ア・コロナ禍において内容を縮小する形での実施となったが、生徒の満足度は94%で目標達成。(○) ・部活動については、6月末時点での1年生クラブ加入率が93%と高く、学校全体としても90%以上を維持できた。(○) イ・近年、関心が非常に高まっている「SDGs」をテーマに中高合同で人権研修を行ったほか、「同和問題」についての研修も行った。また、本校併設中学校においても「性的マイノリティ」についての研修を行っており、本校の教員も参加した。例年以上の研修数となり、大変充実したものとなった。(◎) ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度は92%で、目標達成。(○) ・校則順守については生徒の平常の行動から問題ないことが認められ、学校教育自己診断の質問から除外した。 ・本年度は、進路目標との両立をめざした行事のありかたについての議論に重点をおいたため、生徒宣言が完成できなかった。生徒会執行部として自分たちで学校を創っていきたいという意識は高くなってきたため、継続して審議していく。(△) ウ (生徒向け) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度は91%で、目標達成。(○) (2) ア 新型コロナウイルスの感染拡大により、年度当初に予定していた海外研修を実施することはできなかったが、スマートスクール「モデル校」に指定されたことを受け、本校2年生の生徒40名が中国の広州外国語学校の生徒とタブレットを利用して交流を行った。(△) イ・新型コロナウイルスの感染拡大により、オーストラリアの姉妹校等の交流を含む海外研修は実施できなかった。(ー) ・上記と同じ理由で修学旅行の実施もできなかった。(ー) ・今年度は海外研修の実施ができなかったため、来年度は感染状況を確認しながら国内研修も含めて検討していく。(ー) ・高校2年生は90%、3年生は91%と高い数値であったが、1年生は今年度の海外研修が実施できなかったこともあって75%にとどまり、全体で86%であった。(△)</p>
---	---	---	---	---

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。 イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・中高一貫教育の観点で再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。また、中高一貫校となって4年めを迎える次年度を契機に、分掌再編を検討する。 イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的で効果的な情報発信をする。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ・安否確認等を迅速に行えるよう、連絡手段を確立させる。また、適当な時期に想定訓練を実施する。 ・教育相談係による情報を収集し共有する。 ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究I」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 ・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能したか。 ・分掌再編に向けての検討が具体化されたか。 イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校webページから積極的に効果的な情報発信ができたか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度(令和元年度83%)85%以上をめざす。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会において、保護者や地域の住民の方々が活発に意見交換を行い、学校運営に参画できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度(令和元年度92%)90%以上を維持する。 (保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度(令和元年度93%)90%以上を維持する。 イ・連絡手段体制が確立し、想定訓練等も実施できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」(令和元年度67%)70%をめざす。 ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究I」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上(令和元年度27団体参加)で開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1) ア・中高一貫教育の推進に向けて、中高それぞれの対応する分掌が協働的に取り組む実態があったものの、学校教育自己診断(新規質問)においては、中高連携に関する肯定的評価の平均値は42%で、今後の課題となった。(△) ・次年度に向けての分掌再編については、原案が全職員で確認されている。(○) イ 中高一貫校の訪問は出来なかったが、複数のSSH先進校への訪問が叶い、組織や取組みについて知見を得ることができた。(○) ウ 学校Webページから情報発信に努めるとともに、中学校へのビラ配布やポスターの主要駅への掲出なども行った。(○) (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度は93%で目標達成。(○)</p> <p>(2) ア・学校運営協議会にはPTAをはじめ、地域住民等が委員として参加され、学校運営に向けた意見をいただいている。(○) ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校へ進学してよかった」は93%で過去最高値、(保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校で学ばせることができてよかった」は90%と目標をほぼ達成した。(○) イ・生徒保護者はもとより、全教職員との連絡手段を確立した。新型コロナウイルスの影響により、想定訓練は実施できなかったが、災害時における適切な初期行動や避難経路、校内における人員確認等の安全確認の情報共有を実施した。(○) ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」は68%と、昨年度値を上回ったものの、目標値には届かなかった。(△) ウ・新型コロナウイルス予防の観点から、交流は控えた。富田林小学校前でのあいさつ運動のみ実施した。(○) ・新型コロナウイルスの感染予防の観点から規模は縮小するが、感染予防対策を取りながら行政、大学、研究機関、企業やNPOなどを招き、ブース形式での発表を通じた生徒との交流を予定している。(△) ・石川大清掃も中止が決定し、ボランティア活動も感染予防のため実施できなかった。(ー)</p>
-------------------------------------	---	--	---	---

府立富田林高等学校

<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。</p> <p>ア ノークラブデー、ノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。</p> <p>イ ルーティン化している校務を見直し、業務軽減を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。</p> <p>イ 校務の見直しを行い、ルーティン化している業務を廃止するなどして、軽減化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（令和元年度 47 時間 37 分）を1割削減する。</p> <p>イ 校務の見直しを図ったか。</p> <p>ア、イとも、(教員向け) 学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度（令和元年度 84%）85%以上をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 職員朝礼などでも適宜、ノー残業デー等を周知し、時間外勤務の縮減に努めた。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務は 45 時間 29 分となり、昨年比 1 割削減を（達成した／達成できなかった）。(△)</p> <p>イ 中高の運営委員会を合同で開催するなど、重複する業務の効率化を図った。また、職員会議はプロジェクターを活用してペーパーレス化を進め、業務の縮減につなげた。各種アンケートなどは Web 連絡網を利用して実施し、配付だけでなくデータ処理についても大幅に効率化された。(○)</p> <p>(教員向け) 学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度は 85.4%で、目標達成。(○)</p>
-----------------------	--	---	--	--